

資料－8

4)流域治水の取り組みの報告

矢部川下流左岸地域流域治水検討会(みやま市)

(みやま市) 流域治水の取り組みについて

■ 地域の特徴

矢部川下流左岸、飯江川右岸、大根川に囲まれたみやま市西部は、低平地の特性を生かしたクリークが網の目のように発達し、水田への取水・還元による高度な水利用が行われている。一方、低平地は、内水被害が発生しやすいため、排水機場を設置し内水対策を行っているが、近年の異常気象により、内水被害が頻発している。

■ 令和2年7月浸水実績図



■ 現在実施している流域治水の取り組み

- ・堀切及び川内排水機場の水中ポンプ設置
- ・河川やクリークの浚渫
- ・水門の電動化
- ・高田堰の事前倒伏
- ・クリーク先行排水
- ・田んぼダム
- ・内水・ため池ハザードマップの作成
- ・総合防災マップ(web版)の作成
- ・地域との意見交換会の実施・庁内連絡会による情報共有

■ 高田堰の事前倒伏と併せたクリーク先行排水

【経緯】

1. 令和2年7月豪雨による冠水被害が発生。
2. 令和3年よりクリーク先行排水を試行的に実施開始。
3. 令和4年4月に、利水関係者よりかんがい期の高田堰の事前倒伏に係る承諾を得る。
4. 令和4年より、国交省及び農業関係者と連携し、高田堰の事前倒伏と併せたクリーク先行排水を実施。



【地元の声】

- ・クリーク先行排水の取組みは、ありがたい。
- ・高田堰操作の早々の検討・操作実施いただき感謝している。
- ・以前は、排水機場の強制排水や潮の引きに頼るのみだったが、今後は行政との連携も期待したい。
- ・地元の水門操作リレーもスムーズになってきたので、国と市も連携を密にお願いしたい。
- ・雨の予想が外れても覚悟している。恐れているのは先に進まない。この先、先行排水の流れをしっかりと作っていきたい。

(みやま市) 流域治水の取り組みについて

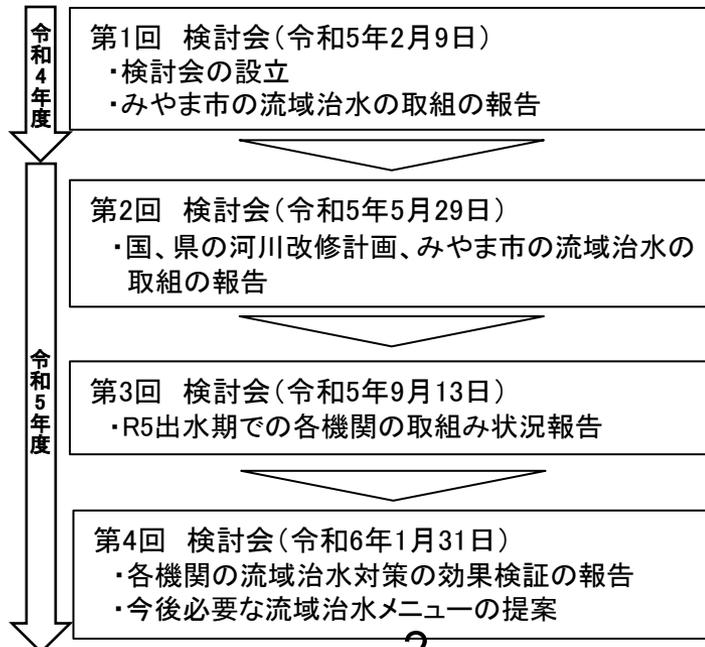
内水被害常習地域かつ近年大きな浸水被害(R2年7月)が発生していることから、浸水被害軽減のためには、国・県・市が協働し、流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策(流域治水)が必要が高まっている。

矢部川下流左岸地域流域治水検討会を設立

【目的】関係機関(国・県・市)で、浸水状況やその要因を共有し、近年で最も被害の大きいR2年7月出水に対する対策案を作成すること。

- 第1回検討会～第3回検討会では、みやま市からは、前述した流域治水の取り組みの実施状況や進捗、今後の予定を報告。筑後川河川事務所・福岡県は飯江川及び大根川の河川改修の状況について報告。
- 第4回検討会で、当面実施する予定のものを含めた流域治水の取組みと河川改修の効果を、筑後川河川事務所で検証していただいたところ、目標とするR2年7月出水の床上浸水解消まで至らないが、一定の効果が見込める結果となった。
- 次回以降、更なる浸水解消に向けた追加の流域治水の取り組みについて議論するとともに効果検証を行い、より効果的な流域治水対策案を作成する予定である。

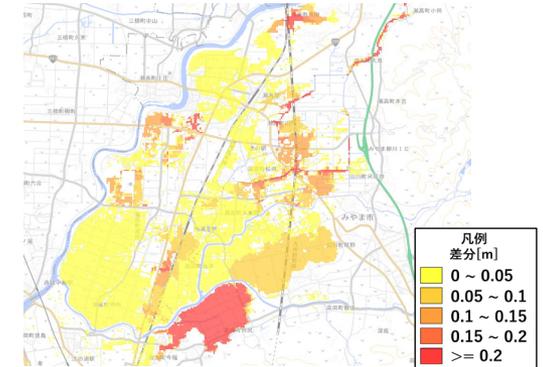
■ 検討会実施スケジュール



■ 構成組織一覧

みやま市	建設課
	都市計画課
	農林水産課
福岡県	総務課
	河川整備課
	南筑後県土整備事務所 柳川支所
国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所	矢部川出張所
	流域治水課

■ 効果の検証結果のイメージ



対策前後の浸水深の差分



第2回検討会の様子